

國學院大學學術情報リポジトリ

古典教育における物語絵教材：
「豊かに読む」ことを目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小倉, 楓子, Ogura, Fuko メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2520

論 文 要 旨

学籍番号	203213	氏 名	小倉 楓子
論文題目： 古典教育における物語絵教材―「豊かに読む」ことを目指して―			
(内容の要旨)			
<p>国語科教育において絵画や写真、漫画、動画などのヴィジュアル資料は、主教材への興味・関心を喚起する導入教材、内容理解を助ける補助教材として用いられる他、そのものが「読む(見る)」「書く」対象として活用されることがある。特に後者は「メディア・リテラシー」に代表される用語で国語科にも取り入れられ、様々な実践や授業構想、理論の検討が行われてきた。それでは、古典教育においてヴィジュアル資料はどのように活用され、また、古文を「豊かに読む」上でどのような有用性が認められるのだろうか。その点を明らかにするために、本研究では、『伊勢物語』第六段「芥川」を例とし、古文を豊かに読み深める上で、物語絵を活用することの意義を考察した。</p> <p>第一章では、「芥川」と、それを描いた物語絵が教材としてどのように扱われてきたのか、教科書調査を通して明らかにした。調査対象とした昭和三一年発行～令和四年使用の高等学校教科書の設問の傾向から、教材「芥川」は、和歌を中核として物語の展開を掴み、女の人物像も鑑みながら、和歌に込められた男の心情を読み取ることが学習の要点になっていた。また、教科書中の物語絵は、単なる挿絵の側面だけではなく、享受史の観点を含めた資料紹介、内容把握のために本文と併せて鑑賞する副教材としての教材観を持っているとわかった。</p> <p>第二章では、メディア・リテラシーの特徴を確認し、古典教育におけるヴィジュアル資料の教材価値との関わりを考察した。古典教育でヴィジュアル資料を活用した各実践の特徴を確認していった結果、「古典に親しむこと」の内実には、メディア・リテラシーの特徴の一つである「学習者の日常の言語生活の中から立ち上がり、還元されることを目指した学習観であること」との共通性が見られた。この共通性を踏まえ、古田雅憲の実践を参考に、古文を「豊かに読む」ことの詳細を考察した。</p> <p>第三章では、文学研究の知見をもとに、『伊勢物語』の教材観の変遷や、本文と絵画の結びつきを確認した。そして、「芥川」は「男女の愛情の物語」として位置づけられることを踏まえ、本文と物語絵を往還し、「豊かに読む」学習活動の一端となる具体例を示した。</p> <p>以上、本研究では「芥川」を例に古典教育における物語絵活用の意義を考察した。『伊勢物語』の享受史の側面、後人の注記へのアプローチなどを含めた具体的な授業構想では課題が残るため、今後検討していきたい。</p>			
キーワード (5語) 物語絵、メディア・リテラシー、豊かに読む、古典教育、『伊勢物語』			